

## 議 事 録

委員会名	平成28年度第9回 足立区男女共同参画推進委員会
日 時	平成29年2月16日(火) 午後2時00分～3時45分
会 場	L・ソフィア 第2学習室
出欠状況	委員現在数13名 出席者数10名
出席者	<p>【委員】</p> <p>石阪督規委員長、中川美知子副委員長、本間博子委員、乾雅栄委員、鈴木房世委員、池上貴子委員、遠藤美代子委員、大竹恵美子委員、坂田卓也委員、羽部幸恵委員</p> <p>【事務局】里見係長、福本主事、早勢男女共同参画専門非常勤</p>
会議次第	別紙のとおり
配布資料	<p>1 平成28年度第8回男女共同参画推進委員会 要点</p> <p>2 年次報告書の素案(意見まとめ)</p>
発信者(敬称略)	議 事 内 容
中川副委員長	<p><b>1. 前回(1/19)推進委員会の振り返り</b></p> <p>・皆さん、こんにちは。第9回足立区男女共同参画推進委員会を始めたい。石阪委員長は、のちほどいらっしゃるとのことである。私はそれまで司会をさせていただく。よろしくお願いいたします。</p> <p>・お手元の資料の確認をしたい。次第、前回の要点、年次報告書、その3点である。だいが春も近づいて来ているようで、なんだかワクワクしてくるような今日の昼下がりである。今日はたくさんお話ししていただけたらいいと思う。とくに「年次報告書」を作る最後であるので、今までやってきたことで、思われることとお話しいただけたらありがたい。</p> <p>・最初に前回の委員会の振り返りを、里見係長からお願いします。</p>
里見係長	<p>・皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日は、ちょうど区議会の質問通告日と重なって、下河邊課長がそちらに対応している。代理として、お話と報告をさせていただきます。</p> <p>・資料1の「第8回男女共同参画推進委員会 要点」をご覧ください。1つめは、「第7次行動計画」作業進捗状況等についてご報告をさせていただきました。第7次の計画で5年計画を1年延伸して6年になっている。この間に世の中もずいぶん変わり、この計画を作るにあたり、私どもも全庁の関係所管と話し、さまざまな意見やご指摘を頂戴している。その中での作業となっている。施策が広がってきているかな、ということで、前回のことについてはこちらに書いてあるので、ご参照いただければと思う。</p> <p>・次に「年次報告書」である。抽出課題に関する自由討議と意見交換をしていただいた。大分類1つ目は、「中小企業におけるワーク・ライフ・バランスの推進」、2つ目が「女性の再就職・チャレンジ支援」、続いて「政策方針決定過程への女性の参画拡大」、最後4つ目として「配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶」、この4点について委員の皆さまにも、活発にご意見を頂戴した。それらのことが、こちら(資料1)にまとめてあるので、ご確認いただければと思う。振り返りについてはこの辺でよろしいだろうか？</p>
中川副委員長	<p>・「第7次男女共同参画行動計画」の作業進捗状況について、お話しいただきたい。</p>

里見係長

・大きな2番の「第7次行動計画」進捗状況の報告をさせていただく。まず行動計画を作成するにあたり、区民と区内大学生に対する意識調査を行った。意識調査結果というのが、まとまって出てきて、現在その校正をしている。単純集計のみならず、ライフステージ別ではどうなのかというところも、非常に重要な課題が浮き彫りにされてくるということで、今、ライフステージ別の作業も業者に依頼して、それを確認しているところである。細かいところを言えばきりがなくくらいに誤り等があり、職員一同、頑張っって作業をやっている段階である。

・次に計画書の本編であるが、各事業の所管課に現状と課題、今後の方向性などについて書面で回答をもらっている。ようやくそれが集まり、これから本編の作成に入るわけだが、今の段階ではページ数から構成、レイアウト等、文字はどのような風にするのかなど、とくに気をつけているのが、ユニバーサルデザインにしようということで、視覚障害のある方にもぜひ使っていただけるようなものにと、つい先日も業者に注文をつけたところである。私からは以上である。

中川副委員長

・今年はずっと大変で、「第7次行動計画」と「年次報告書」の両方を二本立てでやっているため、話があちこちいってしまい、皆さんもよくわからなくなってしまいがちだと思うが、まず今日は、来月区長に「年次報告書」を提出する。それについて重点的にやっていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

・「年次報告書」素案に、総括欄がある。ここにアンダーラインが入っている文章があるが、これが新たに前回までの皆さんからの意見をまとめながら事務局で作成したものである。

・まず読んでみるとする。(以下、総括欄)

-----  
・平成28年度・第7期「足立区男女参画推進委員会」では、「第6次男女共同参画行動計画」(平成23年度から28年度)に基づく施策の実施状況について議論・報告を行う最終年度にあたりました。

・今年度委員会が重点テーマとして選択した課題は、課題「 - 1 中小企業におけるワーク・ライフ・バランス」「 - 4 女性の再就職・チャレンジ支援の推進」「 - 7 政策・方針決定過程への女性の参画拡大」「 - 8 配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶」の4つです。

区は、中小企業に対するワーク・ライフ・バランス推進を堅実に進めてきました。特に企業の取組み易さを重視し、支援メニューの充実が図られたことは、評価・前進と考え、今後もブラッシュアップを継続してください。合わせて、足立区におけるワーク・ライフ・バランスの実現は、「子育てや介護がしやすいまち」「誰もが安心して働くことのできるまち」づくりも進展させるはずです。

女性の再就職・チャレンジ支援の推進では...

・ここでは今日、皆さんのご意見も募りたいと思う。

政策・方針決定過程への女性の参画拡大では、役所がモデルとなることが有効かつ必要と考えます。庁内での取組みをさらに推進し、その進捗状況や課題等を委員会として共有・評価していきたいと考えます。

配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶では...

・ここでも今日皆さんから、ご意見を募りたいと思う。

・現在足立区では、「第7次足立区男女共同参画行動計画」の策定作業中です。本委員会では、

	<p>「第7次行動計画」について区長から諮問を受け、委員会のなかで議論を積み重ね、意見をお出ししました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな行動計画は前計画を敬称しつつ、最新の施策実施状況等を評価・分析するとともに今年度足立区が策定した30年先を見据えた区の新基本構想と連動して成長して行きます。対立や依存ではなく互いの個性や価値観を認め合い、自分の意思でゆるやかにつながり、新たなパワーを生み出す「協働に加えた協創社会」の幕開けです。</li> <li>・委員会として区に大いに期待しつつ、時には叱咤激励し合いながら、男女共同参画社会への課題を解決する一翼を担いたいと考えます。足立区男女共同参画推進委員会一同</li> </ul> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの皆さんのご意見をここにまとめてあるが、ここにいらっしゃるということは男女共同参画について、足立区について、それからご自分の中の共同参画について考えあわせながら今日まで進めてくださったと思う。今、これを読んで、かつ新たな提言やこの部分は強調してほしいなど、今年度の委員会ではこれを絶対強めて、区長に提言してほしいということがあれば、ひとりずつお聞きしたいと思う。きちっとした意見でなくていいので、ご自分の中の男女共同参画、それから足立区への期待、ワーク・ライフ・バランスへ思うこと等々、黒丸の中にあるようなことで考えることがあれば、お教えいただきたい。それからご自分が日々の暮らしの中で体験する男女共同参画で思うことでもいい。そんなことがあったらと思うのだが。</li> <li>・私のほうからひとつ。私の友人の息子さんが、足立区職員と結婚した。息子さんは公認会計士で、上海に赴任になったそうである。すると足立区には、パートナーに対して休業制度があるのだそうで、驚いた。皆さんはご存知だったでしょうか。</li> <li>・私は夫の海外赴任について行ったことがあるが、そのときに海外の人達が暮らす、六本木や麻布、広尾のようなところで、その中に若い奥様たちも何人がいらして、話を聞くと女性たちは皆、大企業を辞めて夫についてきていた。私もそうであったが、そういうことがあると、ああ、本当にもったいないと。私は幸いなことに復職ができたが、そういう人たちは、夫が日本に帰国したらまた仕事を探すのかなと思った。足立区にはそういった休業制度があるのを知らなかったが、ちょっと足立区が誇らしくなった。</li> </ul> <p>里見係長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなかそういう機会や、結婚相手がそういう人だという事例が少ないが、ただそういうことがあった場合、職員は何か利用できる制度はないかと一所懸命探すと思う。制度がある事は知っていた。</li> </ul> <p>中川副委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もしかしたら、第7次行動計画まで作りつつある足立区だから、あるのかもしれない。「ちょっと嬉しかった」というように何でもいいのだが。</li> <li>・いかがだろうか、本間委員、弁護士として今回「年次報告書」に込めたいこと、よく防災に力を入れてほしいとおっしゃられていたが、今、弁護士のお仕事の中で、込めたいことを教えていただきたい。</li> </ul> <p>本間委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここに出席させていただき、再就職の面では実績も積んでいるという報告を聞かせていただいているので、そういう面では引き続きやっていただきたい。女性が元気な区というのは、たぶん家族が幸せというか、他の人も皆元気になるのではないかなと思う。</li> </ul> <p>中川副委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうですね。</li> </ul> <p>本間委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それは配偶者の暴力、DV関係も一緒に、DVで逃げてきている場合には、家庭が別々にとい</li> </ul>
--	---

	<p>うこともあるのだろうが、そうは言ってもとりあえず安全を確保して、ご自分とお子さんの生活を健全に、元気な方向にということで、それができるように足立区が援助できる環境整備やいろいろな制度を紹介する取組みを、今後も継続していただきたいと思う。</p>
<p>中川副委員長 池上委員</p>	<p>・ありがとうございます。では、池上委員。 ・私は荒川区の住民なのだが、育児休業を延長するとかいう話もあるが、それよりもやはり、現場で働く人が求めるのは、保育所などの充実をして、今、（育児休業は）1年半まで延長できるが、1年ですぐに決まって復職できるというのが理想ではないかと思う。足立区は、タワーマンションがどんどん建っているの、若い世代が入ってくる。そうすると子どもをどこかに預けて働きたいという人口は、絶対にこれから増えていくと思うので、充実を図っていくのがよいと思う。私も子どもを産んだときには、綾瀬に住んでいたの、保育園選びを経験したが、当時と今は情勢が違うかもしれないが、入りづらかった。それで仕方なく、実家の近くの荒川区に引っ越した。足立区では無理だな、という感じで。今はだいぶ、東京都の認証保育所も増えているので、と思うが。</p>
<p>中川副委員長 池上委員</p>	<p>・そうなる、今度は質の向上ということになるか。 ・そういうところが充実してくれば、と思う。</p>
<p>中川副委員長 乾委員</p>	<p>・ありがとうございます。すぐに復職できるような環境を整えてほしいということでもよろしいだろうか。 ・私がいちばん関心を持っているのは、女性の参画拡大である。審議会などで、まだゼロのところがあるし、足立区の条例では、40%にすると書いていながらなかなか実現できず、せめて30%まではなんとかと思うが、実際審議会に出てみて、そこで言った意見がどれほど区政に反映されているのかな、という疑問もないではない。 ・例えば、与党第一党に女性議員がないこと、やはり女性議員が増えていかないと、根本的にはなかなか区政に反映されるのは難しいかなと思う。どうしたら女性ゼロの党に女性議員が出ていけるのだろうか、ということに非常に関心を持っているが、解決策が見つからない。 ・以前、女性団体連合会で関東の方がいろいろやったときに、自民党の議員さんは仕方ない、男性議員に出てもらったが、私どもの党はこれで十分です、というような発言があった。そういうところにどうしたら女性が入っていけるのかなと考えている。</p>
<p>中川副委員長 乾委員</p>	<p>・あれはだいぶ前ですよ。依然として変わらない。 ・変わらない。その辺の仕組みは、よくわからないのだが。</p>
<p>中川副委員長 大竹委員</p>	<p>・ありがとうございました。では、大竹委員。 ・皆さん、いろいろと思うところがあるのですね。今のお話、あえて皆さんを敵に回すような発言をしてもいいだろうか？ 今までのお話の中に、女性の比率を上げるとか、積極的に社会参加したいとか、発言をしたいとか、社会の中で広く活動していきたいというご本人の希望とか能力に応じて参加していただくのはもちろん大賛成なのだが、私もこういうところに出ていると信じてもらえないかもしれないが、実を言うと昭和の昔の女性の、男性の三歩後ろを歩いて、ということが大好きで。結構実は、そういう風に本音のところでは思っている人は少なくなく、いろいろところで女性が出なくてはいいけない、という風に言うのも、ある意味暴力的な思考だなと感じていた。 ・制度の部分で、女性が社会参加したい、発言したいという女性がいるのに、女性は会員として</p>

	<p>認めないとかいう制度は絶対にNGだと思うし、制度としての社会的な障壁は取り除いていかないといけないが、男女比がどうかという考え方についても、私は、本当は三步下がって夫の陰で生活して、男性が社会で活躍してくれることが、内助の功で幸せでいる人もいるというところに、ちゃんと配慮がほしいと思う。</p> <p>・この手の話をしているときにいつも感じるのが、本当に女性が出たくて出ないのか？という場面がいっぱいあるということ。少なくとも私がそういう考え方なのかもしれないが、私も含めて周辺もそうであるし、友人もNPOの事業をしているが、今回組織改正をして、部長職に当たる分、男性職員がいることはいる。とあるチームの女性を打診していたときに、男性がやるべきでしょう？という話になって、簡単に言うと女性たちがやりたがらない。私は男性女性関係なしに、本人の希望と能力に応じて、その組織の中のその立場の役割として適任なのか否かということで判断すべきだと思う。男性だから女性だからという問題でもないし、社会の中で男性と女性が、とは言っても半々いるのは事実なので、そういうことも踏まえ、自分が例えば女性という立場で何かの委員会に出たからと言って、女性だから女性だけの視点でやっていけば、世の中や社会、チーム全体がよくなるわけではなく、男性にとってもこういう風ではではないのか？と、女性であってもちゃんと配慮ができる、その逆もしかりで、男性議員さんや男性委員さんの中にも、女性のこういう部分をきちんとしないと社会がよくなるのではないかと考えられるような人が、議員や委員に出て行けば、私はそちらの方にむしろ考えていかないと、単純に男女比で女性がゼロだとか、そこだけで見ようとしてしまうと、本来の焦点を当ててはいけない本質的なことが違う部分に走ってしまいそうな気がして嫌だなと。</p>
中川副委員長	<p>・制度は必要だが、多様な生き方を認めてほしい、ということですね。ありがとうございます。それでは、PTAの鈴木委員。PTAの考えでなくてもいい。</p>
鈴木委員	<p>・大竹委員の話にすごく納得した。本当は男性がやるべきだろうというところに、ぼーんと女性で来てしまったという。でも適任だったねという結果になって。私もどちらかという支えたいタイプというか、三步後ろに下がって、が好きなタイプだったのだが。どうも表に出る出る、と言われ出てきてしまった。</p>
中川副委員長	<p>・出てみれば、いかがだったか？</p>
鈴木委員	<p>・出てきてしまって、ここにいる。</p>
中川副委員長	<p>・そうすると、いかがだったでしょうか？</p>
鈴木委員	<p>・どうなのだろう、物怖じしないところは個性として幼稚園からずっとこういうタイプで来ているので、合っているのかなとは思いますが、自分の中では家事やって、あれやって、これやってというのが好きなタイプ。</p>
中川副委員長	<p>・そういうことも好きだが、PTA活動や地域活動をやることによって、新たなる自分も見つけ出しているところだろうか？ そうすると、活躍の場が多面体にあるといいということですね。</p>
鈴木委員	<p>・いちばん思うのは、子どもたちに接する機会が多いので、保育園、幼稚園、小学校・中学校の児童・生徒たちが、のびのび生活できるように。お互いの個性を認め合って、普通なのだよと。</p>
中川副委員長	<p>・前回、LGBTのところに出てきたが。</p>
鈴木委員	<p>・飲み込めるというのではなく、それがすんなり浸透していけるような教育というか風習というか。そういうものを今からやっていかないと、追いつかないのではないかとするのは、2年くら</p>

	<p>い前からひしひしと感じている。それにトイレの付け替えが、学校で間に合っていない。やるやると言っているのかと。</p>
<p>中川副委員長</p>	<p>・たぶんこの中でも鈴木委員は若い方だと思うが、鈴木委員の中で男女共同参画とはどのようなものだろうか。そんなに意識するものではないだろうか、それとも、自身は三步下がっている受身な女性でいたいのか？</p>
	<p>鈴木委員</p> <p>・発信しなければいけない人、というのはやはりいると思う。やりたくないな、自分はちょっと違うのにとおもっても、いろいろなところから学んで、いろんな人に会って話をし、意見交換をして、影響を受けて、いいと思ったものはどんどん発信して伝えていかなければいけない役割の人はどうしても出てきてしまう。それがPTAの代表であり、PTA連合会でありという組織が必要な理由だと思っているので、こちらで勉強させていただいたことは、必ず連合会で発表させていただいている。小学校でお母さん方に会ったときに、ちょっと悩んでいるのであれば、今、区はこのようなお考えのようだと、話せる範囲ではあるがお伝えしている。女性のネットワークは強いので、会長がこう言っていたよ、どこの誰がこう言っていたよ、というのが浸透していると、区に対する姿勢というか、行政に対する姿勢というのは変わってくるのではないかと思う。</p>
<p>中川副委員長</p>	<p>・知るといことが大切ですよ。知って共有してまた考えるという。わかりました。ありがとうございます。遠藤委員はいかがか？ 女性経営者としての男女共同参画。ワーク・ライフ・バランスでも。</p>
	<p>遠藤委員</p> <p>・今、ここ1、2年で新しい事業が伸びてきて、そこにパートの女性もどんどん増えてきている。ネット関連の部署なのだが、ひとは小さいお子さんがいる方、もうひとはお子さんはいないが、2人とも扶養の範囲で働きたいというので、時間を計算しながら、今日は昼で帰るとか、今日は休みますというような。時給を上げたり、賞与を出したりすると、時間を減らさないといけなくなる。</p> <p>・同じような女性の部署があって、仕事がどんどん増えてくる中で、今2人でやっている仕事を3人にするよりは、ちょうど2人でうまくやれていて、このまま2人でやったほうがやりやすいという意見を聞いた。ひとは独身で生活があるので、もう社員になった。もうひとりの方には、3人にするよりは2人で、扶養の範囲を出てやってくれないかと。例えば月～金で9時～5時でやらないと仕事がどんどんたまってしまっているので、それを提案した。時給は今よりもちょっと上げて。昨日ちょうどその回答があったが、結局年収で計算して、ご主人はサラリーマンではなく自営業なので、年間で5万円の扶養控除があるようだが、それと比較した時に時給が1,110円を超えないと税金が増えてしまうと。その女性の時給が古い人より上がってしまうので、そのためには古い人も上げないと、となって、かなり人件費のアップになるので、これ以上仕事が増えたら、人数を増やすしかないのかな、とか。独身ということもあるが、そういう人は社員になってバリバリお願いしますと言ったら、どんどんプラスの仕事をしてきているが、片やご主人の扶養の範囲内となると、仕事はできるのだがいまいち…。</p>
<p>中川副委員長</p>	<p>・その壁があるということか。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>・ちょうど税理士さんからのレポートで、これは税法上であるが103万の壁が150万に改正案が出ているので、それが通ると働き方も変わってくるのかな、という気はするのだが。もっともっと女性に、扶養の範囲を出てもやってほしいな、と経営者としての立場では思う。育児や家事の時間を減らしたくないというのもわかるのだが、もうちょっと、という思いがある。</p>

<p>中川副委員長</p>	<p>・おっしゃることはとてもよくわかる。103万円の壁が、今度150万円になるというところですね。その辺を打破できるように、あるいは家事も大切にしながら、という選択肢をたくさんということである。</p>
<p>羽部委員</p>	<p>・羽部委員、先日はLGBTの研修にも来ていただき、ありがとうございます。LGBTに限らないが、今思われることは何か？</p> <p>・まったく個人的なことだが、お嫁さんが2人いるが、まったく個性が違う。1人は旦那と話し合ってやっていくタイプ。もう1人は結構自分の我を通すタイプ。何でも話し合うお嫁さんが、まず結婚したときに遠くに勤めていたので、辞めて近くに変わった。子どもが生まれたら、今度は仕事を辞めた。今、子育てをしているが、ちょっと勤めたいな、と思ったときに、保育園に落ちってしまった。だからもうちょっと子育てを頑張ります、と2人で話し合っている。</p> <p>・もう1人は、自分の就きたい仕事に就いている。大学を終えて、自分でお金を貯めて専門学校に行き、資格を取って今、その仕事をしている。帰るのもほとんど毎日終電のようで、家事はほとんど息子がやっている。彼女は彼女で貫き通しているし、息子は認めている。どちらの息子もそうなのだが。制度としては必要だが、多様な生き方もあるのだな、というのをよく思う。</p>
<p>中川副委員長</p>	<p>・多様な生き方ができる社会、地域づくりが必要ということを考えていらっしゃるということですね。ありがとうございます。坂田委員、最後に。</p>
<p>坂田委員</p>	<p>・石阪委員長も来ていただいたので。</p>
<p>石阪委員長</p>	<p>・すみません、遅れまして。</p>
<p>坂田委員</p>	<p>・それまで男性は私1人だったのだが。皆さんの話を聞いていて、男性側からの意見をちょっと言わせていただきたいな、と思ったのが、決して、男性の中にもやりたくてやっている人がたくさんいるわけではなくて、やりたくないが押し出されてやっている人もたくさんいて、ということを知っていただいた方がいいのかなと思う。</p> <p>・もともとは男女共同参画という話で、“男女”と付いているが、今期の話を知っているとLGBTの話があったり、どんどん多様性というのを認めていきましょうという方向に変わってきているのかなど。多様性を認めなさいという話になった場合、いろいろな人の意見を聞かなければいけないので、そうすると女性が入ってくる中に決めなければいけない組織であったり、審議会であったり、経営者だったりということに女性が入っていったり、極端なことを言えば、LGBTの方たちの比率がもっと高かったりすれば、そういう人たちも入って行って、働きやすいような形にするべきという方向に動いてきているのかなあと思う。</p> <p>・もともと日本の社会は、どうしてもM字カーブで、中間層のところは労働力を失われてしまう。そこをもっと上げましょう、それはやはり女性の活用ですね。活用するためには保育園等をしっかり充実して、という話でどんどん増えてきているが、今、働き方の変換みたいところで、多様な働き方を認めていこうとなると、女性と男性という分け方よりも、やはり働き方もそうであるが、男性、女性、中性的な人たちだとか、働き方は時短で働きたい人もいれば、長く働きたい人もいるという、いろいろな生き方をやりやすい社会にしていこうという方向にどんどん来ているのかな、というのは、この委員会に長くいるので、移り変わってきているのかなという気はする。</p> <p>・今回の委員会では、役所の女性比率がどうなのか、といろいろ注目した。そういった働き方であったり、そういったところの見本になったり、そういったことをしっかり発信していけるとい</p>

	<p>うのは、やはり役所がある程度、そういったことを積極的にやりながら、かつ審議会には女性を入れてください、というような縛りを作ったり、役所から働きかけられることというのは、どんどんやっていくべき、というのをこの報告書には盛り込んでいただきたいというのが私の意見である。</p>
中川副委員長	<p>・ありがとうございます。最後まとめていただいた。個々のお話を今、伺ったので、いよいよ石阪委員長にバトンを渡すが、個人のご意見を伺いたい。「年次報告書」に何を入れるのか。坂田委員からは、一つご意見をいただいた。皆さんのご意見の中でまた皆さんが思ったことがあれば、出していただき、石阪委員長にまとめていただく。</p>
石阪委員長	<p>・中川副委員長が、ずっと司会をやられた方がよいと思うが。まとめていただき、私も今日はいろいろと逆に発言させていただく方になろうと思う。中川副委員長に最後まで仕切っていただくということで。</p>
中川副委員長	<p>・個人の男女共同参画についてうかがったが、区長に出す「年次報告書」の中にこの委員会としてどんなことを入れたらよいかということ、とくに白い部分(空白)を中心にしながら、これを入れた方がいいというようなことがあれば、お知らせいただきたい。</p> <p>・坂田委員がまとめてくださったように、いろいろな生き方ができる社会を作っていくこと、その先鞭をつけるのは役所であると。役所が発信して、足立区全体にそれを流していくことがなだらかなのではないか。</p>
坂田委員	<p>・役所ができることは、どんどんやっていきましょう。役所でコントロールできることもけっこうたくさんあると思うので。</p>
中川副委員長	<p>・石阪委員長、そのあたりはいかがが？</p>
石阪委員長	<p>・足立区は、結構ワーク・ライフ・バランスはやってきているイメージがあるが、例えば私が思ったのは、この「女性の再就職・チャレンジ支援」のところが今、空白になっているが、ひとつは非正規と正規の問題が大きな問題になっていて、とくに非正規ですずっとやっている方がなかなか正規になれない社会。とくに女性の場合は、先ほどの年収の問題もあるが、その辺を区としてどう考えるか。</p> <p>・正規の職に、あるいは正社員になれるような支援というか、支援メニューを一層前に進めていくという問題が一つと、もう一つは貧困対策とのからみでいうと、とくに足立区の場合は貧困をずっとやってきているので、ひとり親や子育てをしながら働かなければならない人たちを、どうやって支援するのか、ある程度支援メニューを絞り込んでいくことも大事なのだなと。どの地域でも、女性の支援はやっているが、足立区の場合、ではどこに重点を置くかということと言うと、やはりその2点なのかなと。</p> <p>・今、ほとんど非正規。大学を出ても今、3分の一くらいが非正規である。やはり社会全体が、どちらかという不安定雇用の中で生きている。そういう中でなかなか難しいのだが、どうすれば安定的な収入が得られるようになるのか、という知恵が必要になってくる。雇う側からすると、なかなか正社員は難しいから、という話になるのだが。この辺りは、なかなか行政のサポートはない。</p> <p>・行政の中でもそうである。正規と非正規。23区は比較的、正規は多いが、地方へ行くと半分以上正社員ではないところもあるくらいなので、その問題をどう考えるか。非正規は圧倒的に女性の数が多い。ここが実は、男性と女性の所得格差にもつながってきているということ、やは</p>

<p>坂田委員</p>	<p>り区としてもどう取り組んでいくのかということ、示していく必要があるのかなど。</p> <p>・前にワーク・ライフ・バランスの認定企業などで、ワーク・ライフ・バランスに力を入れているとアピールすると、入るほうも入りやすいとか。ブラック企業の話もいろいろ出てきたし、そういうところをうまく使いながら、マッチングみたいなところで言えば、ワーク・ライフ・バランスを頑張っているところを積極的にマッチングで持ってくると、いい人材が採れて企業側も嬉しいだろうし、ワーク・ライフ・バランスをしっかりとやっているという企業であれば、働く方も話を聞いてもらって、優先順位を高くもっていけるとなれば、企業もやりたいと思うし、就職したい人たちも、というような仕組みもおもしろいかなと思う。</p>
<p>石阪委員長</p>	<p>・マッチングは、実際にはできない。労働局がやると思うのだが。ハローワークと合同でワーク・ライフ・バランス認定企業に特化した就職セミナーみたいなものはおもしろい。ここは女性に優しいとか、子育てしながら働くのにいい企業だけを集めて、労働局と足立区共催でやるのであればよい。マスコミは、おもしろいことをやっていると思うのではないか？。そんなこともできなくはない。</p>
<p>里見係長</p>	<p>・ご報告であるが、先日、LGBTの研修会と重なった日時に、足立区の公共施設の指定管理者を対象とした法令順守研修会、81くらいの公共施設の管理者を集めて、コンプライアンス研修をやっていた。私もLGBT研修を中座して、ワーク・ライフ・バランスのことをお話させていただいた。現在、ワーク・ライフ・バランス認定企業が49社あるが、そのうち指定管理者というのはたった9社しか入っていない。これはあまりにも少ないだろうと思い、自分は現職の前にコンプライアンスの担当課にいたので、指定管理者研修もそれで始めて、啓発もやらせていただくようになった。指定管理者なのだから、認定企業になってほしいと強く思う。指定管理者たる者、リーディングカンパニーでもあってほしいので、そんな強い言い方はしなかったが、お願いしてきた。</p> <p>・マッチングの関係であるが、そういうことができたら素晴らしいなと思う。今のところまだ49社しかなく、認定企業は、そういう就活セミナーから優秀な人材の確保につながると思う。今の若い人は、そんなにがむしゃらにガンガン働いて、という人は少ないと思うので。ただし、企業のほうで、それだけ雇用するということが、会社の体力的にそういう企業ばかりだろうか？と考えると。そう思ったセブをやりたいと思うが、そんなに人をすぐに増やせたりするものだろうか？ セミナーをやって、優秀な人がいた、この人をほしいと思ったときに、無理をしてでも人の獲得というのはあり得るのだろうか？</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>・業種によると思うが、うちなどは定着率がよく、年々平均年齢が上がっていく。そうすると10人いる中で60過ぎの人が4～5人、一番高齢の人は73歳で、現役で働いてもらっている。でもいつかはいなくなるという時のために若い人を補充して育てていくという必要性はある。うちはなかなか新卒採用がうまくいかず、常にお金をかけて募集をしているというのはある。お金をかければ、新卒採用も全部面倒を見てくれるところはあるが、それはそれでまた大変で。結局1、2年で辞めてしまわれたということがあって、それ以来やっていないのだが。大企業でなくても、自分に合った仕事の会社があればという人も、今の時代、いると思う。私たちが若い人を入れて育てたいというのもあるので、そういう機会があればありがたい。</p>
<p>中川副委員長</p>	<p>・足立区の傾向として、職住接近ですよ。住まいの近くで、職を探すということも多いので、ワーク・ライフ・バランスの認定企業と一緒に、就活セミナーみたいなものを区でやって</p>

	<p>くだされば。</p>
里見係長	<p>・もしこれから事業をやるとすると、区民参画推進課の男女共同参画推進係と就労支援課と中小企業支援課で共同でやれるのかなと。今、貴重なご意見を聞いて思ったのは、人を雇うのにはすぐお金がかかるわけですね。お金がかかるところを区で、そういう場を提供することによって、企業経営者の方にも有益であるし、あとは事業をやる度に思うことは、必要な人に必要な情報を届けるといことがいかに難しいか、ということである。広報やツイッター、フェイスブックなどに載せても、本当にそれが必要な人に届いているかということ、なかなか自信がない。イベント的なマッチングを毎年定期的にやられていれば、学校や大学等にも情報提供させていただき、それがどんどん浸透していくような仕組みづくりというのは、大切である。お金がかからないというのは、結構大切ですね。</p>
中川副委員長	<p>・黒丸1と黒丸2を合わせたような感じで、進めてきた。この中で、今の話をまとめさせていただき、提言としてよいだろうか？ その他、これを付け加えておいてほしいというものは、この2つのテーマで何かおありだろうか？ 大竹委員、経営者としていかがか？</p>
大竹委員	<p>・先ほどのようなセミナーは、できればありがたいなあと思っている。ちょっとやそっとの面接や試験では、その人がしっかりと従業員に見合った仕事をする人なのか、という見定めるところが非常に難しく、ある程度の大企業であれば5次試験くらいまであってもいいのだろうが、大企業でそれをやってもミスマッチが起こるといこともあるので、それが小さなところだと、なかなか。雇用はしたくて、うちの常勤職はほぼ常に出させていただいているが、なかなか。</p>
石阪委員長	<p>・ハローワークに出しても来ないのか。</p>
大竹委員	<p>・なかなか来にくいということもあるし、来られてもいろいろとお互い様の部分はあるとは思。なかなか思うようなお仕事に、と。そうすると負担が重くなってしまうので、今出ているのは、非常勤で、ある程度やって、その人の特性が見えるようになってから、常勤雇用に切り替えたほうが。一度常勤雇用にしてしまうと、変な言い方だが、下げたりするのはなかなか難しいので。ただ本当にやる気と気持ちがある方であれば、本当は採用したいというのは同じだと思う。</p>
中川副委員長	<p>・お二人の話から、奇しくも、足立区の状況がわかるような気がした。これは都心の方の企業とは違って、都心の方は1万人もいる中から、何次もの試験や面接を繰り返しているもので、それとは違うということがよくわかった。その辺りをサポートできることを、私たちも提言していきたい。</p>
里見係長	<p>・足立区の人たちは、比較的区内に職を求め、職住接近である。その人が本当にそれを希望して職住接近になっているという考え方と、女性が本当はもっとやりたいことがあって、都心に行けばそういう会社があるが、そこまで行く時間的な余裕やそういうものがない。だから都心部で勤めることがなかなか進まないという考え方も、一方ではあるようだ。だから働き方と企業側の経営改革も必要だろうが、女性が一步踏み出して自分が本来やりたかったのは何なのか？ といことで、自分自身を磨いて、そういうところを目指していくということも必要なのではないかと、いう二方向の見方が、分析を見たらあるようだ。なかなか難しい問題であるし、だからこそ働き方改革でテレワークなど、わざわざ1時間も1時間半も電車を乗り継いで都心まで行かなくても、やりたい仕事ができるような方法を進めていかなければいけないのかな、ということも区の課題として受けとめているところである。</p>
中川副委員長	<p>・大学生の意識調査を今、まとめていらっしゃるということで、その辺りからも探っていってほ</p>

	しい。
里見係長	・やはり多くの学生は、安定雇用を希望されている。
中川副委員長	・以上の二点、働くということについては、この辺りでよいだろうか？ では、「配偶者等に対するあらゆる暴力の根絶」というところであるが、実際にどうだろう、本間委員。実際にお仕事の中で直面されることも多いと思うが、どんなことを提言したら？
本間委員	・暴力を受けた女性の場合はず、夫と別れて生活できるかというのがあって、逃げるかどうかのひとつの選択の基準にはなる。子どもが大きくなるまでは仕方ないというのもひとつだし、1人になると生活できないから仕方ない、というもある。別れても子どもを育てていける経済力が、お母さんのほうにある、というのは女性と子どもの安全のためには必要かと。
中川副委員長	・経済力ということか。そうすると区に対しても期待するのはその辺りだろうか。
本間委員	・もともと専業主婦だったりすると、そもそも自分に経済力がないのはわかっているが、どうすればつくのか、というところで情報が全然入ってこなかったりする。ただ足立区に相談すると、結構相談に乗っていただけて、研修等も受けて、専門の試験等も受けて就職にもつながりやすいように聞いているので、それは継続していただきたい。弁護士のところに来る人は、逆に区とつながっていることも多い。
中川副委員長	・相談できるという。
本間委員	・そういう立場にあるが、誰に相談していいかわからないという方は、常にいると思うので、そういう風に埋もれて、弁護士のところに相談に行けばいいということもわからないような方が、田舎だと何か困ったら役所に行くのだが、逆に足立区のような、都会でもないが中間的なところは、人が多いので、役所に行って相手にしてもらえるのか、というようなこともあるのかなと。
里見係長	・役所につながった人は、相談員もいるので先生のところにご案内したり、ルートに乗ってしまえば、ある程度改善していける。
中川副委員長	・では、ルートに乗るまで。
里見係長	・ルートに乗る前の人たちにはいかに情報の提供もそうであるが、自分が悪いからこういう事態になっているのだ、夫を怒らせないようにしよう、と。男性被害者もいらっしゃるの、自分は男なのだから妻に言われる前にもっと一所懸命働いてお金を入れなくてはいけない、とかそういうのがあるので、必要な人に情報を届けるのと同時に、自己肯定感の低い人たちに対して、これはおかしいぞと、気づきを与えるような啓発が役所の中では必要なのかな、というところで、最近、自己肯定感アップの講座をやらせていただき、大人気である。なんか、このままでいたくないと思うと言うのだが、一步踏み出せない人が多いのかなと思い、その辺りを拾っている感じである。
中川副委員長	・同時に役所としては、被害が深刻になればなるほど、あとあと何十年も引きずることになるので、被害者も加害者も出さないような教育が必要なのかなということで、今はデートDVの講座をやっている。高校、大学は結構定着してきているが、中学校がまだまだというところで、デートDVの啓発は中学校に広めていかなければならないと思う。
中川副委員長	・1つの提言に入れたのですね。
里見係長	・やはり人権問題だと思う。尊重するというか、そういうところがないと、こういう被害、加害はなくなるので、教育の中でそういった心を育てていくというか、そういうことが根本にないとかなかなか難しいのかなと。
石阪委員長	・前にちょっとあったが、例えば人権にからむような中学校向けの、LGBTであったり、デー

	トDVとかいじめとか、どれだったら比較的やってくれているか？
里見係長	・やはりLGBTやデートDVも、なかなか難しい。ついこの間、LGBT研究の第一人者と 言われている、宝塚大学の日高先生に来ていただいて、適切でない表現かもしれないが、教育委 員会に対して、かなり辛辣にご意見をおっしゃっていた。教育委員会が逆にどう思ったかな、と 心配になった。かえってハードルを高くされてしまうこともあるかなと。その時、教育長も来て いて、前向きに取り組んでおられる方なので、やらなくてはいけないという感想があり、ちょ と動いたような情報を聞いた。LGBTもデートDVもチャンスだな、と思っている。
鈴木委員	・やはりLGBTの講演会があった時に、後ろを振り返ったら校長先生や副校長先生がたくさん いらっしゃって、それくらい関心はあるのだな、でもどうしたらいいかわからないから、代表が 聞きに来た、という感じになっていた。
大竹委員	・相談しやすいという意味では、つながるまでというのがすごく重要だというお話、私は一昨日、 区役所の女性用トイレを借りたときに、相談窓口が書かれたピンクのカードが設置してあり、あ れはすごくいいなと思った。人の目があるようなところでは、きっと気になっても取りづら いというのがあったと思うが、個室になっているところであって、何だろうと。もし深刻に悩んで いる人だったら、それで勇気を持ってちょっと電話してみようかな、とか、こういうようなケ ースで電話してもいいのかな、となると思うので、あんな感じの取組みは、すごく素敵だ なと。
中川副委員長	・あれは男性トイレにも置いてあるのか。女性用だけか。常に補充しているのだろうか。
乾委員	・男性のうつも結構あったりするから、男性トイレにもあるといいと思う。
鈴木委員	・協力してもらえば、スーパーのトイレ等にも置かせてもらうとか。
大竹委員	・トイレ、結構いいですね、個室になっています。
鈴木委員	・今、同じことを思っています。
石阪委員長	・男性用トイレ、いいかもしれない。あまり個室に入らないかもしれないが。
坂田委員	・昔、大学の時、サークルのポスターとかが、便器に貼ってあったりする。絶対見る ことになる。
大竹委員	・その時はとりあえずポケットに入れておいて、家に帰ってからもう1回読み直して電 話してみようかな、と。
鈴木委員	・あれは、すごくいいなと。私が見た感じでは、区役所と区民事務所くらいにしか ないと思う。それをもっと広げれば、こういうところに来ない人たちにも知って もらえるのかなと。
里見係長	・以前スーパーにもお願いに行ったことがあり、一時置いてあったが、ス ーパーの方もいろいろ事情でなくなっていったようなことあった。ひとつ情 報の提供で、男性からの被害相談もある。前は東京都のウィメンズプラザで 男性相談を受けていただいていた。足立区の男性被害者の相談はどうなっ ているのかとご指摘をいただき、今、その準備に入っている。できれば今年 の夏くらいから、男性のDV相談を電話相談の形でやらせていただこうと思 っている。
中川副委員長	・これも盛り込んでおいたほうがいいだろうか。
里見係長	・男性相談についても、準備しているということを入れていいかと思う。電 話相談という形式をとるのは、現在の相談員が全員女性なので個室に入 って相談となると問題も感じる。なので、とりあえず電話相談はどうだ ろうか、という流れである。
乾委員	・加害者の相談はあるのだろうか。
里見係長	・加害者構成プログラムをやっているところもあるが、自治体で行って いるところはまだ少ない。そして、更生が難しいそうだ。専門的な知識 があり、なおかつ自分でも加害経験があって、そこ

	<p>から更生した方が相談を受けているところや、支援を受けられるところもある。相談や支援をしているNPOから役所への売り込みもある。</p>
中川副委員長	<p>・ありがとうございます。坂田委員は4年間公募委員をやってきて、年次報告の作業も最後になるが、今年はこれを盛り込んでほしいというようなことはあるだろうか。</p>
坂田委員	<p>・よく話題に上がるが、告知の方法が難しいということは感じている。先ほど話していて思ったが、受け取り手の区民の心に、こちらが発信する情報が、どのようにひっかかるかはわからない。例えば、DV被害者が「自己肯定感アップ」の講座にひかれるかもしれない。そういう講座に参加したときに、「こんな講座がほかにもあるんだ」ということに気づければ、多少は参加のきっかけとなるのかもしれない。</p> <p>・映画が最初の15分くらいで他の作品の宣伝をするように、講座の最初の10分間を「こんな講座もやっている」というような告知の時間にとるとか、他の課の講座でも関連があるような内容は告知していくとか、そういったことをやりながら広げていくことができないかと思った。</p> <p>・受け手の心に何がひっかかるかはわからないから、やってみて「実はこっちのほうが区民の方の心にはひっかかるのだな」という事がわかるのではないかと思っている。チラシは入っているが、なかなかチラシも全員が見ることはないから。</p>
中川副委員長	<p>・その告知方法はまた、受け手へ訴える力が違ってくるかもしれない。</p> <p>・羽部委員はどうだろうか。羽部委員も最後の年次報告となるが。</p>
羽部委員	<p>・制度の充実や多様な生き方がある、という事を前提としながら、環境を整えていってほしい。また、「こんな事やあんな事もある」という情報提供の方法も考えて充実させてほしい。</p>
中川副委員長	<p>・ありがとうございます。委員長、ご意見をお願いしたい。</p>
石阪委員長	<p>・自分はこの配偶者については今、足立区が「協創社会」ということを進めているので、「協創」というのは色々なつながりがネットワーク化していて、それで問題を解決していく、というようなイメージだがDV問題に関しては、何か相談があると一旦役所に来て、役所が何か支援をする、という図式がある。役所が関係の中央にあって、役所を介してつながりはあるが、実は団体どうしはつながっていない。</p> <p>・例えば足立ヒューマンサポートネットワークのような、NPOが連携するような仕組みを区が主導して作って、役所が束ねるのではなくて、その団体のネットワークでそういった人達を支援していくという事が必要なのではないかと思っている。</p> <p>・つまり、協創のモデルを考えたときに一生懸命役所だけが頑張っていて、被害者と個別につながるよりも、支援の手をどうやってネットワーク化させていくかが今後の課題となる。</p>
中川副委員長	<p>・それが足立区としても課題となるのではないか。</p>
石阪委員長	<p>・NPOでDVの支援団体のネットワークはあるのだろうか。</p>
本間委員	<p>・DV被害者の支援をしている方達というのは、もちろん専門職も大勢いるが、自分自身が被害にあった方が支援する側にまわっていることも多い。その方どうして結構相性が合う、合わないということがあり、同じ研修を受けている方どうしでも、この人と一緒にはやりたくない、という話も聞く。なので、支援団体どうしでのつながりは難しいかもしれない。</p>
石阪委員長	<p>・なるほど。そこはそれぞれ個別につながっているだけで、団体どうしのつながりは難しいのが現状なのだろうか。</p>
本間委員	<p>・間に区が入ったほうがいいのかと自分は思う。</p>

石阪委員長	・それこそ一緒にやったほうがいいと自分は思うが。ヘビーなケースもあれば、部分的な支援で済む場合もある。
本間委員	・例えば、こちらの団体では被害者を支援する、もう一方の団体では加害者の更生を支援する、というように段階が違うところで団体どうしが協力するのはいい。しかし同じレベルでの支援に関してはつながることは難しい。 ・連携している団体はもうつながっている。
石阪委員長	・なかなか難しい。そういう仕組みづくりが男女共同参画推進委員会から出来上がっていったら、と思ったのだが。そうなるとうちは厳しいのだろうか。
本間委員	・例えば区で、DVに特化した講演をやりませんか、と団体に呼び掛けて、色んな団体に参加してもらってそこで交流する、というのはできるかもしれない。 ・広い意味でいうと、先程も話に上がった「うつ」だとか「自己肯定感の講座」など、そういった支援をしている団体もあるかと思う。そことつながる、というのもできるだろうか。 ・DVという枠だけでなく広いつながりを持つことは可能なのではないだろうか。
里見係長	・ひとりの相談員がいて、個別に色んなところへ触手を伸ばして自分の引き出しを伸ばしていく。そこでつながる団体はつながっていくのだろうと思うが、例えば区が主催してそういうDVでも自殺願望のある方でも貧困に苦しんでいる方でもテーマがあり、それぞれの方を支援している団体がいる。その方達は、それぞれその道の支援では深い知識や経験を持っている。その方達と一緒に介してセミナーをやったり、情報交換会など、コーディネートのような役割を行政はできるのではないかと思った。
石阪委員長	・そういうきっかけづくりは、やはり行政がやってほしい。
里見係長	・色んな団体に対して「来ませんか」と役所が旗を掲げて来てもらう。そこでつながって有益な情報を交換したりすることは役所が出来ることなのかな、と感じている。
石阪委員長	・若者自立支援をやっていたときは自分も経験があるが、色んな団体を知っていたほうが、いざ来た相談に対して「このケースならあそこの団体が得意だから、話してみよう」ということはある。自分ひとりでやるよりは支援の道が広がるので、そういった団体どうしのコミュニケーションは大事だ。 ・行政にはそういったネットワーク作りをぜひ進めてほしい。
中川副委員長	・では、それも盛り込むことにしたい。
乾委員	・私はこの委員会に参加して、区民参加の連携から協創へ続いていくということを感じた。男女共同参画に限らず、特に子どもの貧困対策に関しては連携していくことがとても大事ななと感じている。 ・団体どうしが縦割りでつながっていると新しいものは何も生まれてこない。
中川副委員長	・団体どうしのつながりがあれば、足りないところは補えるし、余ったところは増やすことができる。 ・特に子どもの貧困問題はそうである。
乾委員	・石阪委員長のお話で気づいたことも多く、勉強になった。
石阪委員長	・自分もこの委員会で区のお考えがわかって、やはりプラットフォーム作り、場作りをやらないと、このままでは足立区も縦割りのままでいってしまう。しかし、進めていくほうの職員はコーディネーターなどと言われても大変であることもわかる。

<p>中川副委員長 池上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しかし逆に足立区がそれを本気でやるということであれば、今までつながっていない団体組織をどう同じ場に集めて支援していくのか、ということが大事だ。</li> <li>・配偶者暴力だけじゃなくて、色んな団体が入ってきたほうがいい。</li> <li>・池上委員はどうだろうか。</li> </ul>
<p>中川副委員長 池上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報について思ったことがある。区民の方に色なことを知ってもらう方法なのだが、足立区も広報があると思うが、それは皆が読めるようになっているのだろうか。</li> </ul>
<p>中川副委員長 池上委員 本間委員 池上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全世帯に配付している。</li> <li>・それならばいいと思う。</li> <li>・しかし新聞状で厚みがあり、文字が小さく読みにくい点もある。</li> </ul>
<p>中川副委員長 池上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば年金制度が変わる時には、ありとあらゆる情報手段を使って宣伝していた。しかしそれでも知らなかった人がいる。そういう情報発信とあまり関わらない人たちがいる。そこを凄く感じるので、そういった人たちにも情報が伝わるように工夫していく必要がある。</li> <li>・社労士会でも中学・高校・大学で「社会に出るとはどういうことか」を伝える出前授業をやっている。これも区で予算をとってくると本当はいいのだが、ほとんど我々の支部でお金を出して開催している。</li> <li>・足立区の教育委員会にもかけあったことがあるが、なかなか動いてくれなかった。</li> <li>・中学生くらいから社会の仕組みを知ることは大事だ。あとは高校生、大学生に対して社会に出ると雇用保険とか、そういった制度があるんだよ、ということ学ぶ機会があることもすごく大事かと思う。</li> <li>・そういった予算を区が取ってくれて、児童、生徒、学生が学ぶ機会があるといい。</li> </ul>
<p>中川副委員長 池上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で働く方が話してくれる機会は、学校の先生が話すこととまた違っていい。</li> <li>・帝京科学大学でやったことがあるらしいが、そのときは学校の先生が一番熱心に聴いていたそう。</li> </ul>
<p>中川副委員長 坂田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂田委員はライフプランを立てることを教えているから、その経験から何かご意見はあるだろうか。</li> <li>・先日、町屋で講座をやらせてもらったのだが、そのときは学校にチラシを配らせて頂いて、おこずかいを例にとったマネープラン講座をやらせてもらったのだが、そのときは学校の方がたくさん聞きに来てくれた。</li> </ul>
<p>中川副委員長 坂田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう風に講座を通じて、情報が必要な層に伝えるべきことは伝えられればいいなと思う。</li> <li>・あと、情報発信する手段としてフェイスブック等もあるかと思う。</li> <li>・つなげあう、つなぎあうという意識が必要なのではないだろうか。</li> <li>・アンケートで「何を見てこの講座に参加しようと思ったんですか？」という項目を確認すると、やっぱり知人の紹介だったりする。そこは人と人のネットワークかなと思う。あとは、先ほども発言で出た団体と団体とのつながりだったりとか、確かにそれで、自分はFP協会というところの主催で講座をやると100名くらいしか集まらないが、東京都等と共催でやると600人～700人の人が集まる。そういった強い発信力を持つところともつながりながら、足立区の取り組みをアピールしていく、せっかくの場ができると思うので、団体と団体のつながりは協創するためには重要なと思う。</li> </ul>
<p>里見係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO活動のお祭りのようなものを区でやっているが、そこで多少はつながりも出来るのだと</li> </ul>

	<p>思うが、それは各団体それぞれ目的が違う。</p>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ N P O フェスティバルだと、課題解決に向けてつながっていく感じではない。</li> </ul>
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体の発表会で終わってしまう。それがもったいない。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ある程度、課題を見据えて、ということになる。</li> </ul>
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時々、N P O センターからの発信で、例えば貧困関連の情報のアナウンスがあるが、それが対象者の人が本当につながりやすいような...</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までのお話だが、皆さんから頂いた意見を見ていくと、だいたいワーク・ライフ・バランスとチャレンジ支援と、区内の審議会等については、これでいいかと思われる。他は、書いておいていただいたほうがよい。具体的にもう数字に出てくることなので、それに向けて取り組んでほしいと。</li> <li>・ 資料1の裏面にあるが、20%以下についてですね。審議会としては、ゼロのところとか、20%以下のところ。これはここまで言うのか？ 改善策を具体的に上げてもらって、報告を含めてヒアリングをと。ここまで具体的にしなくてもよいが、審議会からは強く要望として出ていることが伝わるような表現のほうがいいのかなと。</li> </ul>
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区議会の会派で、女性が入っていないということと...</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、何%くらいなのか？ 今、区議会議員は何人くらいいらっしゃるのか？</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 与党だけがゼロ。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 党としての努力をしないと、なかなか難しいのだろうか。</li> </ul>
本間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政が候補者を探していないのではないか。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比例選挙だと、交互に行っているところがあるが、こういう場合の選挙は結構難しい。</li> </ul>
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こういう問題はあまり触れられないのだろうか？</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あまり触れているところはないと思うが、向かう先が区長というよりは、それぞれの政党に行ってしまうので。ここで書くというよりは、後ろのほうの意見として、17ページの「政策・方針決定過程への女性の参画拡大」のところの意見として、例えば区議会議員の女性比率の向上に向け、各党派、政党に努力を促す、というような表記。</li> </ul>
本間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 例えば一般論として、一般社会の男女比が、区政にも反映されるのが望ましい。だからこそ、その目的のためには政党も頑張ってもらいたい、という表記を入れたい。</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そもそも人口の男女比から比べると、こちらの政策・方針決定過程への女性の参画比率は合わないで、意見を十分に反映することが難しいと考えられるため、その取り組み・啓発を推進してください、というような流れでよろしいだろうか。17ページのほうに、意見として区議会各会派についても同様にしたい。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長からも委員会の参画率についてはかなりお話があったと聞いたが。</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日たまたま、審議会等の女性参画比率の割合が低いということで、わたくしども区民参画推進課と人事課とで区長からお話を聞いた。区長も本気で取り組みを考えている。</li> <li>・ なかなかこの問題は役所側からすると、学識ある区民の方や様々な立場のある方に「お願いします」とお願いする立場なので、あまり注文をつけられないということもあった。決めた人選に関して役所から文句があるならやめる、というようなことを心配していた。この委員会はそのことではないが、役所としては委員をやってくれるというだけでありがたかった、という心理がある。しかし、それだとやはり女性の審議会参画比率には表れてこないで新しい改革を覚悟を持</li> </ul>

	<p>ってやりなさいと区長からお話があった。</p>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も他の課の方から言われた。女性の大学教授で、男女共同参画の専門の方を紹介頂けないでしょうか、と言われた。これは女性の方でお願いしたいと言われた。しかし、女性の専門家の方は意外と少なく、難易度が高かった。しかし、いつの頃からかそういうオファーが来るようになってきている。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見のひとつとして、先程の大竹委員の意見も入れておいてほしい。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このように有識者の方に相談に行ったり、話を聞くことで、結果的には女性の掘り起こしになると思う。今までルーティンで男性だけで運営するような委員会だったのが変わってきている。</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性でやりたいと思っている方もたくさんいる。ただ、そこにまで情報がないので、そこに後れをとらずきちんとやりなさいという時期がきたのだと思う。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木委員のように最初は内気で「自分にできるだろうか」と感じていても、実際に出てみると色々な勉強が出来るし、他の人にも得たことを伝えることが出来た、という収穫もあるわけで。</li> </ul>
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの委員からの意見はこれくらいで、委員長にまとめて頂いてもよろしいだろうか。</li> <li>・その前によろしいだろうか。先程LGBTの項目で、性的指向についてからかう事はセクハラにあたる、という国家公務員の就業ルールについて定めるという話だが、例えばLGBT当事者のことを、おとおんな等とからかうことはセクハラにあたるということであるが、それが定められる予定だ、という事も広く区民の方にも知ってもらいたい。</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアに出ているLGBTのタレントのことを、視聴者側は「彼らは他の人と違うのだ」と笑いの対象にしているが、その時点でそれはおかしいことなんだと自然と伝わるようなことが本当は必要なんじゃないかと思う。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいのは、これはLGBTのことだと表立って書いていないことである。今回表立って表記しているのはこの4項目なので。おそらく次年度はかなりLGBTのことを前面に押し出してくるだろうとは思いますがセクハラに関することは表立っては表記されないかもしれない。</li> </ul>
里見係長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の区ではもっと早くからLGBT支援の話と、リプロのことについて啓発している。足立区では大昔にはLGBTの講演をさかんにやっていたが、ぴたっとやらなくなった。それは色々な方からのご意見があって、やめざるをえなかったという流れがあるようだ。しかしここでまた復活してきている。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なので、入れるとすると意見のところになるのだろうか。</li> </ul>
本間委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性の多様性に配慮した言葉遣いを区としても気を付ける、のような表記はどうだろうか。</li> </ul>
乾委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それは教育のところに入ったらいいかかなと思う。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それではどこかへ入るように配慮したいと思う。</li> <li>・区長への年次報告書についてはここで締めさせていただいてよろしいだろうか。</li> <li>・その次の議題へうつる。今日の次第の4番目、今後の予定について、年次報告書について、事務局から説明をお願いできるだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次報告書については、今日、委員会の提言の確定をまずしなくてはいけない。それについては事務局で今日の意見をもとにたたき台を作成してから、委員会の代表として、委員長、副委員長に確認して頂く。これに関して、委員の皆様からご了解を頂けるだろうか。</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(拍手)</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございます。では、今後この確認については委員長、副委員長にお目通し頂くこととする。委員の皆様からも「これを言い忘れていた」というようなことがあれば、メールでも電話でも構わないので、事務局へお知らせ頂ければと思う。</li> <li>・そして提言に関しては各所管課へ降りるので、その所管はこの提言に関してはどういう考えや方向性を持っているのか、という集約を行っていく。それを踏まえて更に年次報告書案の作成を行っていく。報告書案が出来たら、委員長、副委員長に確認して頂いて、その後校正をする。年次報告書が出来たら、それをもって区長へ報告をするという予定である。</li> <li>・続いては次第(4)と併せてご説明していく。(3)の委託実施講座の評価会に関してだが、様々な啓発講座について自主的に開催しているものと委託しているものがある。委託している講座の評価を委員の皆さんにお願いしており、次の年の講座の開催に活かして参る内容である。</li> <li>・次第に載っている(4)の 区長報告、 評価会は最終回と同じ日に設定させて頂いた。最終回は3月21日、火曜日となっている。</li> <li>・第10回委員会は午後1時30分から3時まで、足立区役所本庁舎10回で行う。</li> <li>・委員会終了後は8階の秘書課へ移動して頂き、午後3時から3時30分まで、委員の皆様から区長への報告をして頂く。流れとしては、委員長から区長へ報告書を渡して頂き、その後、撮影をしてから区長と委員の皆様との意見交換会を行う。</li> <li>・その後はまた、10階へ戻って頂いて、講座の評価会を委員の皆様をお願いしたい。</li> <li>・早めに終了すればそれまででいいが、遅くとも午後4時45分までには終わらせたいと考えている。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(4)の 委員会はいつもどのようなことについて議論するのか。いつもと同じ内容でいいのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日は既に年次報告書はできているので、区長報告の時の流れの確認と、7月に完成予定の行動計画に関して、また皆様からご意見を頂ければと思う。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日はあえて行動計画には触れなかった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局も今、行動計画と年次報告書とを同時進行で大変な状態だったので、年次報告書を3月に終えて、その後に行動計画をやっていきたいと考えている。7月までまだ4か月あるので、皆様からのご助言が私達にとっては必要なものであるので、引き続きよろしくお願いしたい。</li> </ul>
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度でいうと、3月21日が最後ということになるのだろうか。委員の皆さんの中でも任期の最後になる委員の方もいらっしゃるわけか。</li> </ul>
中川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう新しい委員の方になるのだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのあたりの事務は準備中というところだが、以前に小学校のPTA連合会と中学校のPTA連合会の総会が終わらないと次の会長が選出されないということを知ったので、その都合もあり、新年度の6月くらいにご連絡させていただく予定となっている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">～ 3月21日の時間を確認し、終了～</p>